

ひだか 市民ネット 通信

VOL.4
2024年
春号

ひだか市民ネットワークは
投票率UPのため
選挙割に取り組みました！



発行：ひだか市民ネットワーク MAIL hidaka.s.net@gmail.com TEL 090-4916-6484

生物多様性勉強会第2弾「自然復興と生物多様性を考える」 (2024年1月22日開催)

多摩川流域からみる生物多様性の視点で、今回のテーマは「きれいな水は都会でどのように変わったのか」でした。山梨県を水源とする多摩川は全長138km、流域人口460万人、そのほとんどを人口が密集する東京都と神奈川県の間を流れ、その85%の水量は東京都民の水道水として使用されています。上流はイワナ・ヤマメ・アマゴ・カジカなどが生息する美しい溪流が続いています。

しかし、近年生物多様性を阻害する要因が増えました。

①砂防ダムの存在

…水生生物が上流部に移動できない。

…砂防ダムの土砂は約10年で蓄積し、機能を果たさなくなるばかりか、土砂が流れ出ないため中流・下流・海にまでその影響が出る。

②道路工事

…国道線や観光目的の道路建設で土砂が野積みされ、雨で流出し川が濁る。

…土留ネットや土嚢・フレコンバックなどが劣化して分解し、雨水と共にマイクロプラスチックとなって河川を汚染する。

③水再処理センター

…水再処理センターから排水される処理水は水温が高く、5-10度上流より高くなる。処理水には細菌の繁殖を防ぐため殺菌剤(次亜塩素酸ナトリウム)が含まれ、水生昆虫にも影響を与えている。環境ホルモンの検出も確認されている。

④河川工事

…川を氾濫させないための対策を常にとることで、頻繁に工事が行われ、橋や堰が作られたが、水生生物の住みか減少、自然災害による破損が増えるなど、生物多様性を阻害する要因が増えている。

今回は多摩川の事例でしたが、高麗川でも生物多様性を阻害する要因となるものがあります。高麗川の上流でも魚からマイクロプラスチックが検出されています。また、水温上昇により外来種増殖の恐れもあります。河川の工事にはぜひ生物多様性を視野に入れた環境アセスメント(環境影響評価)を取り入れてほしいと思いました。

(小鳥)



information

* `なおこの茶話会` *

成田奈緒子とお茶しながら暮らしの中で感じることをお話しませんか？子ども、学校、教育のこと、環境、ゴミ、空気、水のこと・職場などでのモヤモヤなど大人も子どもも自分の言葉で話すとて大切☆市内各所で開催予定。



次回開催予定

5/14 (火) 13:00 ~

巾着田のことを学ぶ時間を予定

6/26 (水) 14:00 ~

@喜久屋佰家店 (高麗の郷向かい)



生物多様性勉強会 第3弾



川で魚を捕って食べよう！

これまでの学びから人が川と上手に仲良くなることで生物多様性が守られるのではないかと考え実際に河原で魚とりをします！

講師は伊藤教行さん (NPO 法人 R.I.La)

6/1 (土)

詳細はひだか市民ネットワーク SNS へ

6/16 (日) 捕った魚の内臓にマイクロプラスチックがあるか顕微鏡で見よう！も開催決定

ひだか市民ネットワーク会員募集！
(年会費 1500 円)

まちづくりメンバーやポスティングメンバーも
随時募集中！

Instagram

facebook

